

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
22・1・24(月)
南NEWS no 109



1月16日(日) 5・6年 アーリーヒットの練習

練習の始めに、むさしのリーグ、大和田招待の振り返りから、染谷コーチにアーリーヒット・プレスバックの指導をお願いしました。

染谷コーチは東京都サッカー協会少年連盟の技術指導員で、U-12都代表の監督として国際大会に参加されたこともあります。豊富な指導の知識・経験を子どもたちに伝えてほしかったのです。

その後のゲームでは何人かの子もたちの強いプレスバックでボールを奪うプレーが観られるようになりました。



“クマさん”

矢上は埼玉の川口市立中町中学校の1年生からサッカーを始めました。それから64年です。

中学時代のサッカー部の顧問は理科の松沢先生でした。ひげが濃く、ごつい顔でしたが、優しいので愛称が“クマさん”だったのです。

クマさんは前任校の川口市立西中学校で埼玉県大会を制し、仲町中学校に転任してからは学校創立2年目の2期生を県大会3位に導き、4期生の矢上の3年生の5月、埼玉県学徒総合大会準優勝と導いてくれたのです。

クマさんが怒ったのを見たことがなく、いつも良いところを褒めて、自信を持たせる言葉かけをする先生でした。

1年生で市内駅伝にかり出されて、クマさんが自転車で伴走してくれて、イチニ。イチニと声をかけてもらい、励まされながら、植木で有名な安行の山道、3kmを走ったことも思い出です。

南の2・3年生の指導をしてくださるのは田邊コーチと水野コーチです。お二人の指導を観ていると、

「オー！すごい！ナイスシュート！」などと常に声をかけ、褒めています。大きな声で、子どものプレーの良いところを、シンクロコーチングで認め・励ます声かけを絶えることなくされているのです。

クマさんを思い出しました。お二人の超ポジティブなご指導で、2・3年生は本当に楽しそうに練習・ミニゲームをしています。上手くなっています。伸びています。より伸びてほしいとドリブル・ターンのさらなる強化をお願いしました。どの学年もドリブル・ターンの技術向上に取り組んでください。

「とても上手くなってきましたね。いろんな技が出るし、動きも鋭く速くなりましたね。コロナが心配だけどなんとか試合をさせてあげたいですね」とお二人に話しました。

あと何人か、人数が増えればと願っています！！



『もういいかい まあだだよ』小椋佳著 双葉社 第四章 生きる p198~200

.....

人間はマネから入る生き物です。

親や周囲を見てマネて、言葉を覚えていく。

マネの段階が終わったら、学びの段階に入ります。

でも、僕の見限り、今の日本人は残念ながら、言葉をきちんと学び終えるというプロセスが欠けているんじゃないでしょうか。だからまあ、本が売れない。新聞が売れない……。

考えるためには言葉が不可欠なのに、その言葉が身についていないから、考えること自体がちゃんとできない。

当の言葉にしたって、ただ学ぶだけでは足りません。

言葉を学んだら、今度は、自分の言葉を創っていく段階にステップアップしなきゃいけない。

自分の言葉を創ることは、他でもない自分の人生を生きることでもあるんです。

「振る舞い」というのは、動作を示す「振り」と、自分独自の動作を示す「舞う」が合わさってできた言葉です。

例えば、「人の振り見て我が振り直せ」というフレーズは、振り、つまり人の動作を見て、自分の動作を直しましょうね、という意味。マネするだけなら「振り」です。

問題は「舞い」。誰かのマネを超えて、自分ならではの動作にまで到達しているのか。ちゃんと「振る舞えて」いるのか。

言葉の意味を正しく理解して、「自分のもの」として使いこなしているのか。

今の日本では、一国の首相でさえも「舞い」までいっているように見えませんね。失政の責任をどう取るのかと記者から迫られても、「国民の安全を守り、粛々と職務を全うする」などと定型コメントを繰り返すばかり。

言質を取られないように狡猾にはぐらかしているというよりも、質門の意図すら理解しているのか怪しい。

暗い気持ちになります。

自分を自分たらしめているのは、言葉です。

言葉を獲得するためには、マネから入らないといけない。

でも、マネする対象が少なければ、マネできることも少なくなります。

言葉の危機的状況に立たされている若い人のためにも、老年たちはどんどんしゃべるべきです。

マネさせる対象を、たくさん提供してあげようではありませんか。

「人の振り見て我が振り直せ」、私も肝に銘じなければと思えます。いくつになっても反省ばかりの人生です。

b y 南の安版万



